

第2回早稲田大学・同志社大学 共同SDワークショップ
海外留学への学生派遣促進に向けた課題
—学生の海外渡航に伴う危機管理について

Shape your world



1

留学・海外学習における危機管理の取組み
—1回生向け海外学習プログラムを事例として—

2014年11月28日

立命館アジア太平洋大学

アカデミック・オフィス 芦田 恵樹



1. 1回生向け海外学習プログラム「FIRST」の事例

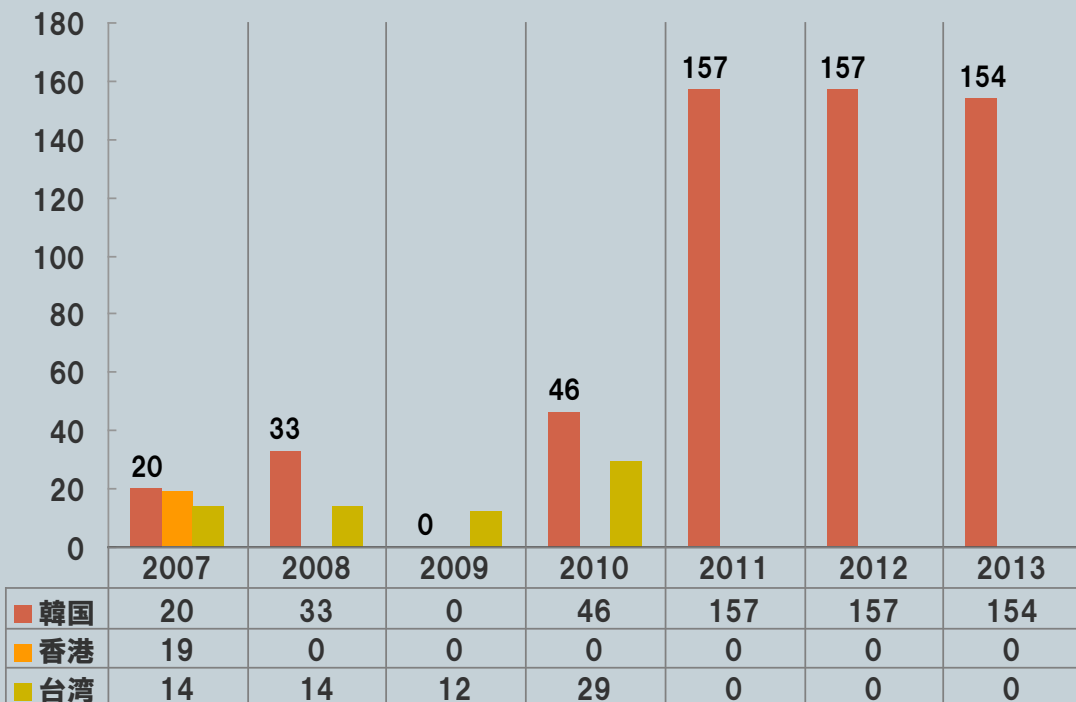
(1) プログラム概要ー1回生向け海外サバイバル体験 ①

2

FIRST Freshman Intercultural Relations Study Trip

1回生向け異文化体験学習プログラム

入学直後の早い段階から異文化を体験し、異文化理解や異文化間コミュニケーションの促進、多様な海外派遣プログラムの参加へと誘導する



累計 **520名** が参加
+2014年度参加者
156名

参加規模 **200名**
APU最大規模のアクティブ・ラーニング

参加学生 **156名**
韓国学生TA **26名**
教職員 **18名**

韓国学生TA: 危機対応要員および学びのサポート
職員の参加は研修としても位置づけている

1. 1回生向け海外学習プログラム「FIRST」の事例

(1)プログラム概要ー1回生向け海外サバイバル体験 ②

3

- 科目名 : ファースト・プログラム
参加対象学生 : 1回生 日本語基準国内学生
単位数 : 2単位 (共通教育科目)
実習時期 : 春セメスター クォーターブレイク (6月初旬、週末含む4日間)
参加費用 : 約70,000円+現地活動費約30,000円
6名からなる小グループで、現地で調査活動を実施する。

STEP 1

事前授業

現地語の学習、
調査テーマの決定、
調査準備、危機
管理ガイダンス
受講

全7コマ

STEP 2

実習

くじびきで調査地
決定、自力で
調査地へ移動、
フィールド調査

4日間

STEP 3

事後授業

調査結果のプレゼ
ンテーション
自分たちの経験
を伝える力を
養う

全4コマ



1. 1回生向け海外学習プログラム「FIRST」の事例

(1) プログラム概要ー1回生向け海外サバイバル体験

③

4

“サバイバル”の要素 ⇒ 「危機」の可能性

- ・言語ー英語も日本語も通じない。韓国語は日常会話もできない学生がほとんど。
- ・文化理解
- ・行き先も宿泊も決まっていない
- ・観光地でない地域への派遣ー初めての海外・初めての韓国

大学側としては・・・

約30の小グループがばらばらに行動、
行き先は把握していても、ルートは学生次第、たどり着くかどうかもわからない
コントロールがきかない状況も

⇒どんな危機管理対策が考えられるか

1. 1回生向け海外学習プログラム「FIRST」の事例

(2)「FIRST」にみる危機管理 ①

5

①情報収集

韓国出身または韓国の事情に精通した教員・学生(主にTA)・校友・韓国オフィス等からの情報を受けて、担当教員を中心に情報収集

⇒プログラムの詳細を設計(派遣先となる都市の選定など)

⇒危機管理シミュレーション(有事の際の集合場所、現地へたどり着けなかった場合の誘導先など)、ネットワーク構築

学生自身もグループで協力して情報収集(現地調査のためには必須)

②事前授業における危機管理ガイダンスの徹底

③現地での危機管理体制

・韓国人TAを配置－TAトレーニングを徹底

・教職員約20名引率(2014年度)－全学から選出。

危機管理を行うとともに、実習時の「振り返り」で学生に「気づき」を与える役割

④実習期間中の日本(APU)での危機管理体制

1. 1回生向け海外学習プログラム「FIRST」の事例

(2)「FIRST」にみる危機管理 ②

6

「FIRST」から得られるもの
プログラム全体を通じて、
学生自身で危機管理を考えさせるトレーニング
失敗やトラブルもプログラムの範囲内。
→今後の海外学習等の際に応用できるように。

教職員の引率 ⇒ **FD / SDの役割**

教員は、他のプログラム設計時、引率時に応用可能。

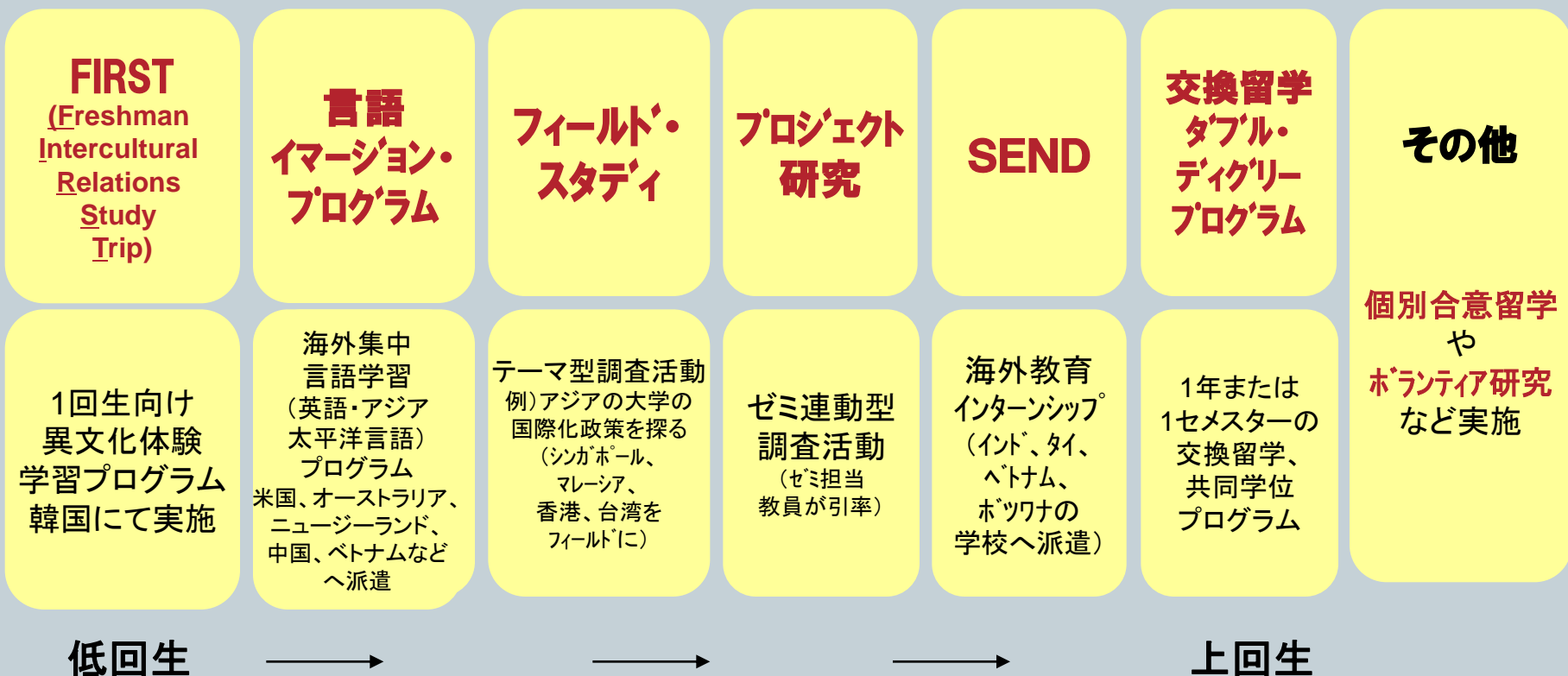
職員自身も「FIRST」を経験 → **学生の視点・プログラム運営側の
視点両方にたって危機管理を考えるトレーニング**

2. 多様な海外学習プログラムと想定される「危機」 ①

7

多様な学生が集い、且つ学生の海外派遣を進める大学

→ 大学が提供する海外学習プログラム



2. 多様な海外学習プログラムと想定される「危機」 ②

多様化する海外学習プログラム

- **派遣期間(日数、時期)** – 数日のものから年単位のもの、クォーター制度により、海外大学の学年暦への対応も可能、出発時期もばらばら
- **派遣人数** – 数名のものから200名規模のものまで
- **派遣先(国・地域)も多様**
- **プログラム内容** – 交換留学⁺_α、インターンシップ、農業体験など
- **プログラム形態** – 例)日本→米国→タイ・マレーシア

⇒ **全てに多様化**

⇒ **学生のニーズは多様。**

大学の提供する海外学習プログラム以外で
学生が海外に飛び出している現状も。

3. 危機管理の取組み—危機回避の観点から

(1) 情報収集 ①

9

情報収集

プログラムの企画時に情報収集の上、予想される「危機」の種類を確認、現状から将来予測を行い、プログラムの実施について早期に判断。

※ 主には、初めて派遣する国・地域、観光等で行くことの少ない国・地域等について調査。

入手ルート(情報源)

外務省海外安全ホームページ、渡航関連情報など

外部機関・有識者

派遣国が出身国である教員

派遣国が出身国である学生(TAとして雇用することも)

海外オフィス

派遣国にいる校友(母国・母国以外) など

入手した情報にもとづき、危機を発生させないプログラムに調整

—例えば、現地での移動手段(電車 or 飛行機?)、移動ルート等

3. 危機管理の取組み—危機回避の観点から (1) 情報収集 ②

10

情報収集を通じた「情報共有・ネットワーク形成」の意図も

海外オフィス、派遣国が出身国である教員や派遣国が出身国である学生、派遣国にいる校友(母国・母国以外)などに、プログラムの実施有無や詳細を知らせておくことで、有事の際も迅速な対応が取れる。

⇒有事の際には、これらのネットワークを活用して
実際に生じた危機の情報を収集し、対応にあたる。

その上で、
参加する学生が自身で情報収集を行うことが重要
現地で自分の身を守るのは、自分自身。

⇒学生にどう働きかけるか？

3. 危機管理の取組み—危機回避の観点から (2)参加学生への意識づけ・事前学習 ①

11

参加学生自身が事前に情報収集を行い、「危機」に備える

海外学習プログラムに参加する学生全員
事前授業として、「危機管理ガイダンス」への参加が必須。

単なる「ガイダンス」は、学生にとって優先度・重要度が低い???

⇒「事前授業・事後授業」として、教職員が実施。

主体性をもたせる、自身で「考えさせる」仕掛けが必要。

※本学の場合、派遣学生は日本人とは限らない。第3国(母国→日本→留学先)に留学する国際学生も。日本の常識だけでは、十分な理解は得られないことにも留意。

派遣前ガイダンスの強化 危機管理ガイダンス配布資料(抜粋)①

Shape your world



12

危機って何？ What is Risk?

犯罪
Crime

?

病気
Sickness

天災
Natural
Disaster

テロ
Terrorists
Attack

どうしたら避けられるのか How can you avoid crisis?

- 「君子危うきに近寄らず」
- Be smart and avoid dangerous areas and occasions.
- 危険を感知する能力を身につける
- Learn to have a good sensitivity to perceive danger.
- 危機に入ってしまったときに逃れる方法を常に考える
- Think how you can escape from a critical situation.

派遣前ガイダンスの強化 危機管理ガイダンス配布資料(抜粋)③

Shape your world



14

you could become...

- いつでも加害者になる事があるという認識
- You could become a victimizer.

まとめ Summary

- 「慣れた土地ではない」という意識を持ち続けること
- You are no longer at home.
- 「悲観的に準備し、楽観的に行動する」
- Prepare pessimistically, act optimistically.

APUガイドラインより/from APU Guideline

緊急連絡カード(黄色)とJ-TASカードを携帯すること!
Always carry Emergency Contact Card (Yellow) and J-TAS Card!

派遣前ガイダンスの強化

危機管理ガイダンス配布資料：ケース・スタディ編

15

What would you do in case of ? こんなとき、どうする？

Case

今日は、フィリピン滞在期間で最後の土曜日。
お土産を買うためショッピングに出かけようと思っていたが、
友達から マニラの中心部でデモがあると聞いた。さあ、どうしよう？

Today, it's my last Saturday in Philippines. I was thinking of going shopping for some souvenirs, but my friend told me that a riot may take place in the middle of Manila. What should I do?

まとめ:更なる危機管理強化 ～今後の強化ポイント・課題①～

16

(1) 教職員による役割分担と協力体制

- 教員・・・担当科目の領域における専門家
引率中の危機管理にかかる基本対応の徹底
- 職員・・・各種の設計運営担当、リソース(体制・予算)調達
危機管理の評価システム構築、サポート・プログラム運営
学生動機づけに資する「教育的」職員への転換へ

(2) 情報収集・情報管理の強化

- 災害・事故等(特にニュースが入りにくい地域等の)迅速な情報収集
- 学生の居所のアップデート
- 海外オフィスや校友、協定校等との連携強化

まとめ:更なる危機管理強化 ～今後の強化ポイント・課題②～

17

(3) ガイドライン・マニュアル整備—いざという時に使えるマニュアル

↑ ↓ 相互のバランス

(4) マニュアルに頼りすぎないフレキシビリティの養成

- 臨機応変に対応できる教職員のキャパシティ、定期的な訓練
+ 日常的なアンテナ感度

(5) 危機管理を念頭に置いた実施プログラムの厳選

↑ ↓ 相互のバランス

(6) プログラム・キャンセルの判断と経費の取り扱い

APUは未だ発展途上、進化が問われるのはこれから。
開学14年の経験をベースとして、さらに先へ。

ありがとうございました。

